

みずほマーケット・トピック(2019 年 3 月 13 日)

ブレグジット、「2 度目の否決」と「新たな期限」

昨晚、メイ英首相は修正離脱協定案について 2 度目の採決を試みたが、再び否決された。1 月の歴史的な大敗から相応の巻き返しが見られたが、大差であることには変わらない。期限内の議会説得はこれで失敗に終わったと考えられる。明後日の採決を経て、「離脱期限(3 月 29 日)の延長」はほぼ確実だろう。目先の注目点は「離脱期限の延長」に移る。ポイントは欧州議会選挙との兼ね合いだが、選挙が実施される 5 月 23 日か、新たな欧州議会が召集される 7 月 2 日が重要な日付として浮上している。前者ではあまりに短いゆえ、やはり「7 月 2 日」が 1 つの節目となり、「6 月末までの 3 か月間」というのが「新しい期限」の候補になるのではないかとはいえ、離脱決定から 2 年 9 か月もの月日をかけて埋まらなかった溝がたった 3 か月で変わるのかという根本的疑問は残る。なお、一抹の不安として、労働党を中心とする野党勢力や残留を望む与党議員が「6 月末までの 3 か月間」という延長案を飲むのかという論点も気になるところ。

～「新しい期限」で今と同じことが起きるだけ～

昨日の為替市場ではポンド相場が乱高下の展開。メイ英首相は修正離脱協定案について 2 度目の採決を試みたが、反対 391、賛成 242 で再び否決された。1 月の歴史的な大敗を思い返せば、反対派の切り崩しは相応に成功したものの、元々の分断があまりにも深過ぎたといえる。今回の採決が僅差であれば 3 度目の正直・・・という話もあったはずだが、もうその線はあるまい。期限内の議会説得はこれで失敗に終わったと考えられる。明日(日本時間早朝、以下同)には「合意なき(ノーディール)離脱」について採決が実施されるが、これは否決が既定路線である。重要なのは明後日の「離脱期限(3 月 29 日)の延長」に関する採決である。昨日、トウスク EU 大統領の報道官も英国の要請に基づいて交渉延期を検討する可能性に言及しており、延長はほぼ確実だろう。

だが、昨晚、メイ首相自身が「合意なき離脱に反対票を投じ、離脱延期に賛成票を投じたからといって、われわれが直面している問題は解決しない」と述べていたように、期限を延長しても結局は「新しい期限」で今と同じことが起きることは容易に想像できる。過去の本欄¹でも議論したようにブレグジット・トリレンマを超えられない以上、穏健離脱派、強硬離脱派、欧州委員会のいずれかが自身の立場を大幅に譲歩しなければならない。その三すくみが崩れる雰囲気は今のところない。

～「新しい期限」は 3 か月後か～

将来のことはさておき、とりあえず、目先の注目点は「離脱期限の延長」に移る。今週 11 日、ユンケル欧州委員長はメイ英首相と離脱協定を巡り合意した後、トウスク EU 大統領にあてた書簡の中で欧州議会選挙(5 月 23～26 日)より前の離脱完了を求めたことが明らかになっている。ちなみに今年 1 月、欧州委員会は新たな欧州議会が開会する 7 月 2 日以降も英国が EU に残留する場合

¹ 本欄 2019 年 2 月 5 日号『ブレグジット交渉を巡る Q&A～今一度行う現状整理～』をご参照下さい。

は英国から欧州議会議員を選出する必要があるとの立場を示している。これら 2 つの説のどちらを重く見るかは諸説あるが、さすがに欧州議会選挙を目処に期限を設定するのは難があるだろう。仮にそうした決定をしてもわずか 1 か月半の延長にしかない。とすれば、やはり欧州議会選挙を経て、新議会が召集される「7 月 2 日」が 1 つの節目となってくる。きりの良い時期を想定するならば「6 月末までの 3 か月間」というのが「新しい期限」の候補だろうか。この点、離脱決定から 2 年 9 か月もの月日をかけて埋まらなかった溝がたった 3 か月で変わるのかという根本的疑問はやはり残る。上述したトゥスク EU 大統領の報道官は「離脱延期とその期間には信頼できる理由」がなければ EU は延期を検討しないという可能性も示唆している。現実問題として延期しか選択肢はないが、これまでの経緯が経緯だけに EU としても「新しい期限」への期待感が高くない様子が窺い知れる。

～野党勢力を中心に長い延長を求める可能性も～

なお、一抹の不安として、労働党を中心とする野党勢力や残留を望む与党議員が「6 月末までの 3 か月間」という延長案を飲むのかという論点もある。周知の通り、これらの勢力は再国民投票の実施と結果としての EU 残留という大逆転を狙っている。再国民投票実施のための準備には数か月から半年かかるとの見方が強いと、これを望む勢力にとっては 3 か月間という延長期間は全く足りないという話になる。「きりの良さ」を意識するのであれば、年内いっぱい(9 か月間)の延期を主張する可能性などが想定されるだろう。だが、この案は再国民投票で残留を勝ち取ることを既定路線とした危うい案でもある。仮にここで離脱となった場合、延長した期間は全て水泡に帰す上、「英国がいつか EU に復帰する」というシナリオも今後、数世代に亘って封印されることになる。

しかし、素朴な疑問ではあるが「6 月末までの 3 か月間」というメイ政権案が否決され、「年内いっぱいの 9 か月間」という野党勢力の案が可決された場合、欧州委員会はそれで納得するのだろうか。既述の通り、欧州委員会は新たな欧州議会の召集を跨いで交渉を続けることで「EU 加盟国なのに欧州議会に議員が存在しない」という前例の無い事態が発生することを回避したいという意向がある。まさかとは思うが、ここにきて延長期間を巡って英政府と欧州委員会が対立を深め、3 月 21～22 日の EU 首脳会議に間に合わないということはないだろうか。現状、基本シナリオは「6 月末までの 3 か月間」という短期的な延長を野党勢力も受け入れ、これをもってメイ首相は EU 首脳会議に臨むというものだが、リスクシナリオとして延長要請の提出が間に合わないという展開も頭の片隅には置いておきたい(その場合、臨時 EU 首脳会議を月末に・・・となりそうだが)。

また、離脱期限が公式に延長されるためには、明後日の動議提出の後、立法化のプロセスを経て EU 首脳会議に提出する必要がある。とすれば、会議前日(3 月 20 日)までには英政府としての方針を立法化しておく必要がある。つまり、残された時間はちょうど本日から 1 週間である。

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年3月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年1月分)
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年12月分)
2019年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～ドラギ総裁は1度も利上げできずに退任へ～)
2019年3月5日	米金利上昇&ドル高を阻む「ドル化した世界」
2019年3月4日	大統領のドル高けん制～不安な「相手国が悪い」という理屈～
2019年3月1日	週末版(金融政策格差に落ち着いた年初の2か月間～互いに「住む世界が違う」様相～)
2019年2月27日	米中貿易協議再延期を受けて～現状と展望の整理～
2019年2月25日	円安リスクの点検～想定外の米経済堅調が招く円安～
2019年2月22日	週末版
2019年2月21日	FOMC議事要旨～「patient」の舞台裏～
2019年2月20日	自動車関税を前に考える日欧の立ち位置
2019年2月18日	停滞する日米欧中銀への期待と為替相場
2019年2月15日	週末版(米小売売上高ショックをどう読むか？～懸念される逆資産効果～)
2019年2月14日	看過できない仏伊関係の悪化～大戦以来の大使召還～
2019年2月13日	ドル/円相場は新常态にあるのか？
2019年2月12日	変わりそうにない対外直接投資の潮流
2019年2月8日	週末版(2018年の円相場の基礎的需給環境～対外証券投資への期待は難しそうな2019年～)
2019年2月7日	次期ECB総裁レースの現状整理
2019年2月6日	バイマン独連銀総裁も認める景気減速の現状
2019年2月5日	ブレグジット交渉を巡るQ&A～今一度行う現状整理～
2019年2月1日	週末版
2019年1月31日	FOMCを受けて～正常化プロセスの終了～
2019年1月29日	「株価ファースト」という誤解を招きかねないB/S縮小戦略
2019年1月28日	円安リスクの点検～円高のメインシナリオを揺るがすもの～
2019年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「年内利上げ無し」を暗に認めたドラギ総裁～)
2019年1月24日	日銀金融政策決定会合を受けて～「願望」すら難しい状況に～
2019年1月22日	堅調なユーロ相場の背景にある欧州の減速
2019年1月21日	対米貿易黒字ゼロ計画について～マッチポンプは終わらず～
2019年1月18日	週末版(正常化どころではないECBを取り巻く近況～市場のメインシナリオは転換済み～)
2019年1月17日	英国情勢の論点整理～「壮大な茶番劇」に終わるか～
2019年1月11日	週末版
2019年1月8日	財界トップの相場観と静か過ぎる「波」
2019年1月7日	「バブルは崩れてからがバブル」という考え方について
2019年1月4日	波乱の幕開けの読み方～猪突猛進の円高スタート～
2018年12月27日	3つの論点で要約する19年見通し
2018年12月25日	FRB議長解任騒動について～真正正銘のリスクオフの前に～
2018年12月21日	週末版(FOMCを終えて～新局面への第一歩、為替への影響は～)
2018年12月19日	FOMCを前に読みたい白川元日銀総裁インタビュー
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年11月分)
2018年12月17日	2019年、日米欧のテールリスクはどこにあるのか？
2018年12月14日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「高まる警戒」と「続く自信」～)
2018年12月12日	2019年、世界経済の勘所～利上げの真価が現れる年～
2018年12月11日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年12月10日	動き出した「メルケル後」のドイツそしてEU
2018年12月7日	週末版
2018年12月5日	遂に発生した逆イールド～金利に追隨する株価～
2018年12月4日	バリ暴動の読み方～2つの懸念～
2018年12月3日	米中首脳会談～2020年まで続きそうな「壮大なマッチポンプ」～
2018年11月30日	週末版
2018年11月28日	メインシナリオへのリスク点検～FRBは来年こそ変わる～
2018年11月27日	続・「安全資産としての円買い」が勢いづかない理由
2018年11月26日	ECB政策理事会議事要旨～TLTRO3の行方～
2018年11月22日	週末版(制裁手続き着手を表明した欧州委員会～イタリアにとっては辛いポリシーミックス～)
2018年11月21日	ノーティールを視野に入れ始めたボンド相場
2018年11月20日	ユーロ圏を巡る資本フローとユーロ相場について
2018年11月19日	イタリア政局を巡る現状と展望～制裁が視野に～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年10月分)
2018年11月16日	週末版
2018年11月15日	メイ首相、最後の戦いへ～「外」から「内」へ～
2018年11月14日	ドル/円相場、現水準をどう理解すべきか
2018年11月13日	四面楚歌のユーロ相場～「5つの不安」～
2018年11月12日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2018年11月9日	週末版(米中間選挙の見通しへの影響～不透明感後退も見通し大勢に影響なし～)
2018年11月8日	メンツを賭けた「7.0防衛」の危うさ～外準減少を受けて～
2018年11月7日	示唆される世界経済の先行き減速懸念～PMIとCLI～
2018年11月6日	露わになるユーロ圏の経済減速～注目されるECBの拳動～
2018年11月5日	米景気改善の「きわみ」～悩ましい貯蓄率の読み方～
2018年11月2日	週末版(ドル相場の近況に思うこと～ドル高の背景と今後の勘所～)
2018年10月30日	「メルケルなきEU」の幕開け～理想主義の後始末へ～
2018年10月29日	メインシナリオへのリスク点検～「高値波乱含み」という警告～
2018年10月26日	週末版(ECB政策理事会を終えて～不安を煽るECBの強気～)
2018年10月25日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年10月24日	「安全資産としての円買い」が勢いづかない理由
2018年10月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年9月分)
2018年10月19日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「鏡に映った自分」に踊るFRBの危うさ～)
2018年10月18日	為替政策報告書を受けて～抜きん出た中国の取り扱い～
2018年10月17日	ブレグジットを巡る近況整理～曖昧な危機認識～
2018年10月16日	ユーロ相場と資本フローの近況
2018年10月15日	為替条項要求の冷静な読み方～底うぼど弱点として露呈～
2018年10月12日	週末版(国際与信統計が示唆するドル高リスク～ドル建て債務を如何に軟着陸させるべきか～)
2018年10月11日	NYダウ平均株価の大幅調整について～起こるべくして・・・～
2018年10月10日	ベシス上昇と米金利上昇とドル/円上昇の関係
2018年10月9日	米9月雇用統計を受けて～「想定外の加速」は継続中～
2018年10月5日	週末版(ECBが迎える「未知の世界」～緊縮下での金融引き締め～)
2018年10月4日	ドイツ化するユーロ圏～求められる正しい陣頭指揮～
2018年10月3日	イタリア政局の整理～今回はやはりイタリアに言い分も～
2018年10月2日	外国人労働者受け入れ拡大～昔「円高是正」、今「人手不足」～
2018年10月1日	円高見通しが実現していない理由
2018年9月28日	週末版
2018年9月27日	FOMCを終えて～見えてきた転換点～
2018年9月25日	メインシナリオへのリスク点検～オーバーキルを巡る見解～